

ビールとガラス館

そこは大きな総ガラス張りのビアレストランであった。ビールが大好きな私にとっては旅のひとつの嬉しいオアシスであった。福島県猪苗代湖畔に本場ドイツ製の醸造機械を設置して、日本酒の杜氏にあたるブルーマイスターも招き、本格的なドイツビール造りにこだわっていた。そして磐梯山から流れてくる猪苗代の伏流水はビールに欠かせない天然水である。確かに普段飲んでいるビールとは大きな違いがあった。その一つは豊かな香りである。そして深みのある濃い色をしていた。自家製のソーセージを当てにして飲むとまるでドイツ気分となってくる。

ガラス越しに迫ってくるように見える磐梯山は標高 1816 mのどっしりと構え、雄大なすそ野の広がりを見せていた。

ここは日本百名山のひとつで会津磐梯山と親しまれている活火山でもある。民謡の「会津磐梯山」は全国的にも有名。「♪～（エンヤ）会津磐梯山は宝の（コリヤ）山よ 笹に黄金が（エーマタ）なりさがる…おはら庄助さん なんて身上つぶした 朝寝 朝酒 朝湯が大好きで それで身上つぶした ハアもっともだ もっともだ～♪」庄助さんの生き方は男として分からないわけではない。

昼食を済ませ外に出てみると「世界のガラス館」が目の前にあった。世界のオリジナル商品約 2 万 5 千点にもぼるアイテムが一斉に展示されている。大変な迫力だ。これらガラス製品にはリーズナブルな価格の食器から、億単位のシャンゼリアをはじめとするインテリアまで多種多様だ。私は嘗てベルギーのクリスタルガラスの巨匠ルイ・ルルーの作品に興味を持ったことがある。店内の商品の中からビールグラスの前で足を止めた。

撮影 2014 年夏

